

現地災害調査速報

平成27年2月13日に神奈川県厚木市で発生した突風について

目次

- 1 突風の原因
- 2 現地調査結果
- 3 気象の状況
- 4 特別警報・警報・注意報及び気象情報の発表状況
- 5 参考資料

平成27年2月20日

注) この資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがあります。

横 浜 地 方 気 象 台
東 京 管 区 気 象 台

1 突風の原因

2月13日15時10分頃に、神奈川県厚木市長谷（はせ）付近で突風が発生し、倉庫や非住家の屋根の一部が飛散する、コンテナが横転するなどの被害が発生した。

このため、14日、横浜地方気象台は気象庁機動調査班（JMA-MOT）として職員を派遣し、現地調査を実施した。

結果は以下のとおりである。

1-1 突風の原因の推定

（1）突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、局地的な前線に伴う旋風と推定した。

（根拠）

- ・被害の発生時刻には被害地付近で活発な積乱雲はなく、雨は降っていなかった。
- ・被害の発生前後に被害地付近で飛散物を巻き上げながら移動する渦を目撃したという複数の証言があった。また、住民が撮影した渦の映像を確認することができた。
- ・被害地に近い気象観測所の観測データで、前線通過の特徴である風向の変化と気温の下降がみられた。

（2）強さ（藤田スケール）

この突風の強さは藤田スケールでF0と推定した。

（根拠）

- ・倉庫や非住家の屋根の一部が飛散した。
- ・コンテナが横転した。

（3）被害の範囲

被害範囲の長さは約0.8km、幅は約200mであった。

1 - 2 突風被害発生地域

● : 突風被害発生地域



謝意

この調査資料を作成するにあたり、関係機関の方々、神奈川県厚木市の住民の方々にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

2 現地調査結果

実施官署：横浜地方気象台

実施場所：神奈川県厚木市長谷

実施日時：平成27年2月14日 08時20分～15時10分頃

2 - 1 被害状況

- ・人的被害 なし
 - ・住家被害 13棟
 - ・非住家被害 5棟
- 厚木市危機管理部危機管理課調べ（平成27年2月14日現在）

2 - 2 聞き取り状況

A氏（厚木市長谷）

- ・15時頃、車からおりたところ、西側倉庫付近に赤土が舞っているのをみた。
- ・渦は倉庫付近から北に向かったが、その後、こちら（東南東）へ進路を変え近づいてきた。ゴーという音とともに、小石があたる音がした。
- ・15時08分頃には、風はおさまっていた。耳鳴りや気温変化は感じなかった。雨、雷もなかった。

B氏（厚木市長谷）

- ・15時過ぎ、倉庫東側の田んぼの道を歩いているとき、倉庫付近の渦に気づいた。渦は真っ暗で、ゴーという音とともに自分のいるところにせまってきた。渦は3分程度で過ぎていった。
- ・雨や雷はなかった。上空には真っ暗で帯状の雲があったが、漏斗状の雲は見られなかった。

C氏（厚木市長谷）

- ・15時過ぎ、倉庫の屋根がはがれていくのを確認した。
- ・土埃が巻き上げられ渦巻いていた。
- ・渦は東方向へ移動していった。見えなくなるまで5分くらいだった。
- ・耳鳴りや気温の変化は感じなかった。
- ・雨、雷はなかった。渦が発生する前は明るかったが、渦が過ぎた後は曇となった。
- ・渦の上に漏斗状の雲は見られなかった。

D氏（厚木市長谷）

- ・15時10分頃、テレビを見ていたら、ガタガタと音がして、最初は地震だと思った。
- ・外を見ると、南側が一面砂埃で茶色く、物が舞っているのを確認した。
- ・15時20分頃にはおさまった。雨は降っていなかった。

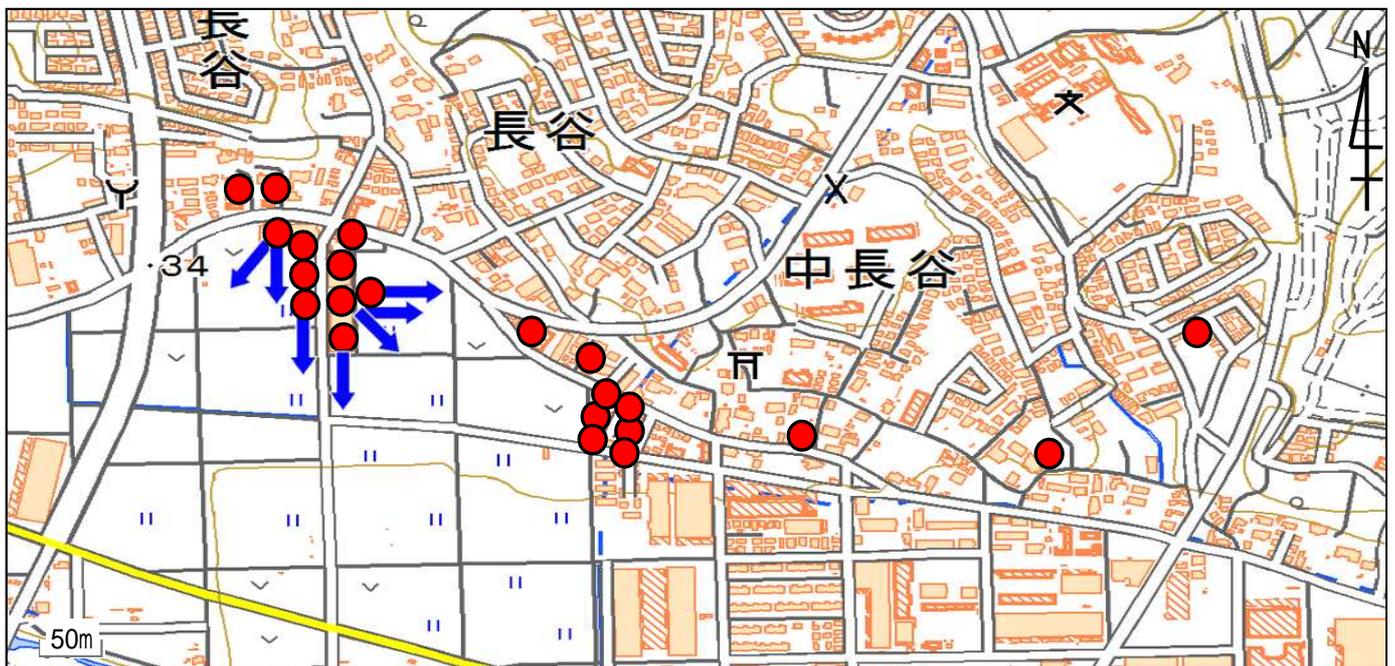
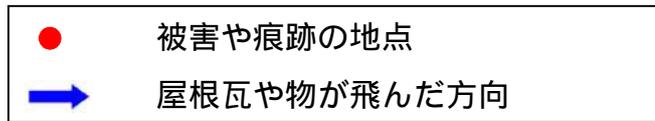
2 - 3 被害発生地域図（神奈川県厚木市）



出典：国土地理院

- 被害発生地域拡大図（神奈川県厚木市長谷付近）・・・ P5
- 写真撮影位置方向拡大図（神奈川県厚木市長谷付近）・・・ P6

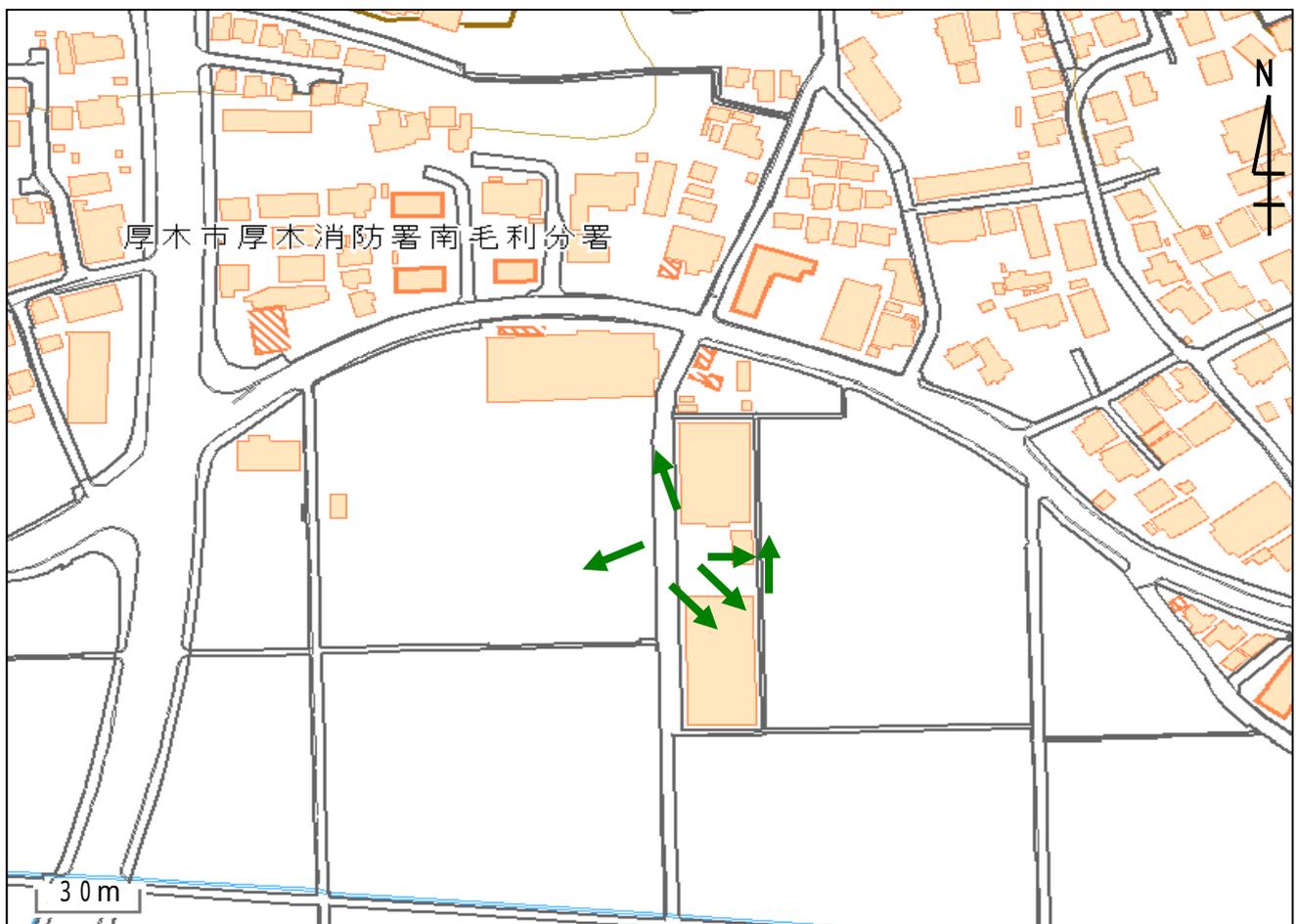
被害発生地域拡大図（神奈川県厚木市長谷付近）



出典：国土地理院

写真撮影位置方向拡大図（神奈川県厚木市長谷付近）

→ は写真を撮影した方向
番号は写真を撮影した位置で、各被害状況写真の番号に対応している。



出典：国土地理院

被害状況写真



屋根の一部が飛散した倉庫
【南から撮影】



屋根の一部が飛散した倉庫及び飛散物
楕円は特に大きな飛散物(屋根の破片)
【北西から撮影】



扉の一部が損壊した倉庫
【北西から撮影】



屋根がめくれた事務所
【西から撮影】



倒壊したフェンス(長さ約70m)
【南から撮影】

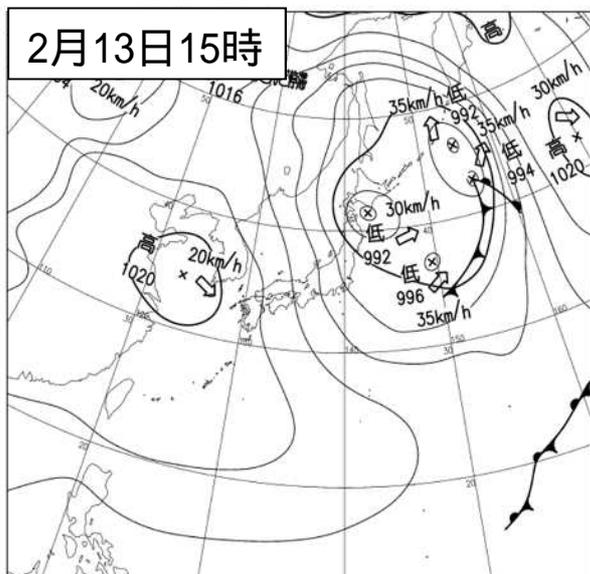


横転したコンテナ(南に約7m移動)
【東から撮影】

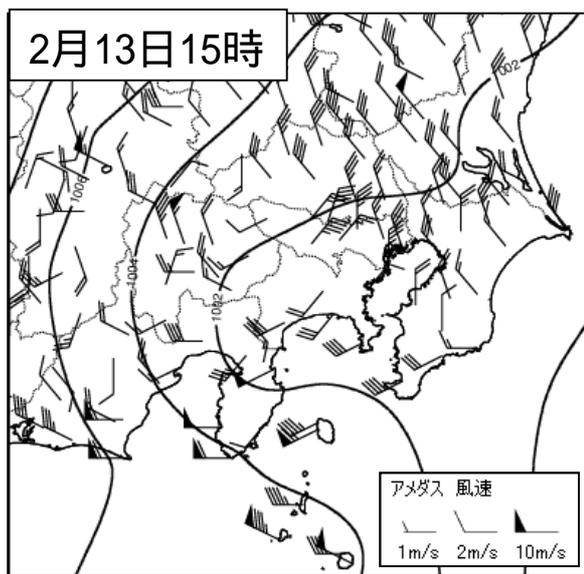
3 気象の状況

2月13日15時、襟裳岬付近には発達した低気圧があり、日本付近は冬型の気圧配置となっていた。

一方、関東甲信地方の沿岸部では西または南西の風が卓越し、内陸は北よりの風となり、関東地方南部では局地的な前線が形成された。この前線の通過に伴い、厚木市では突風が発生した。

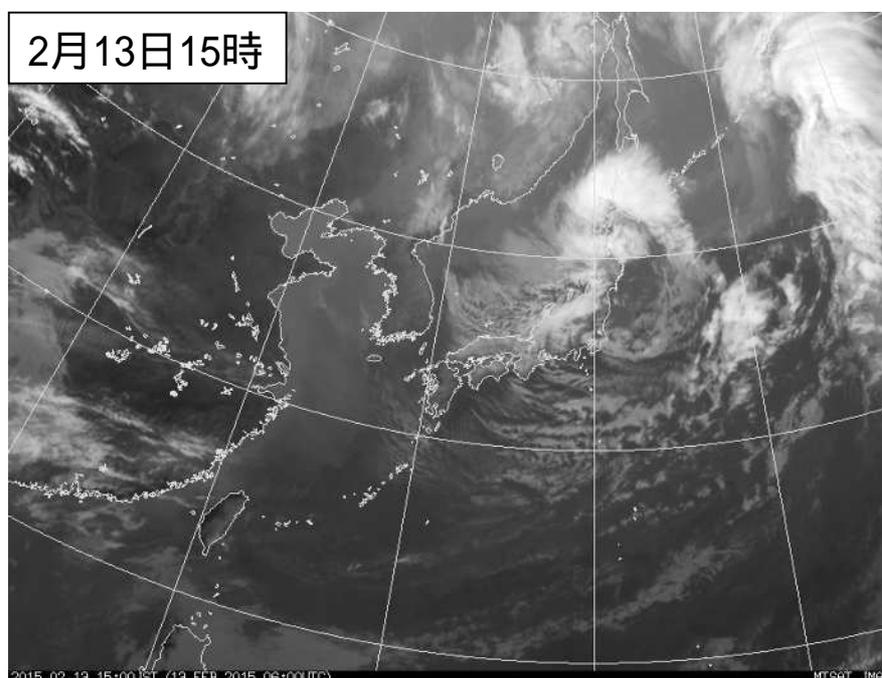


地上天気図（2月13日15時）



局地天気図（2月13日15時）

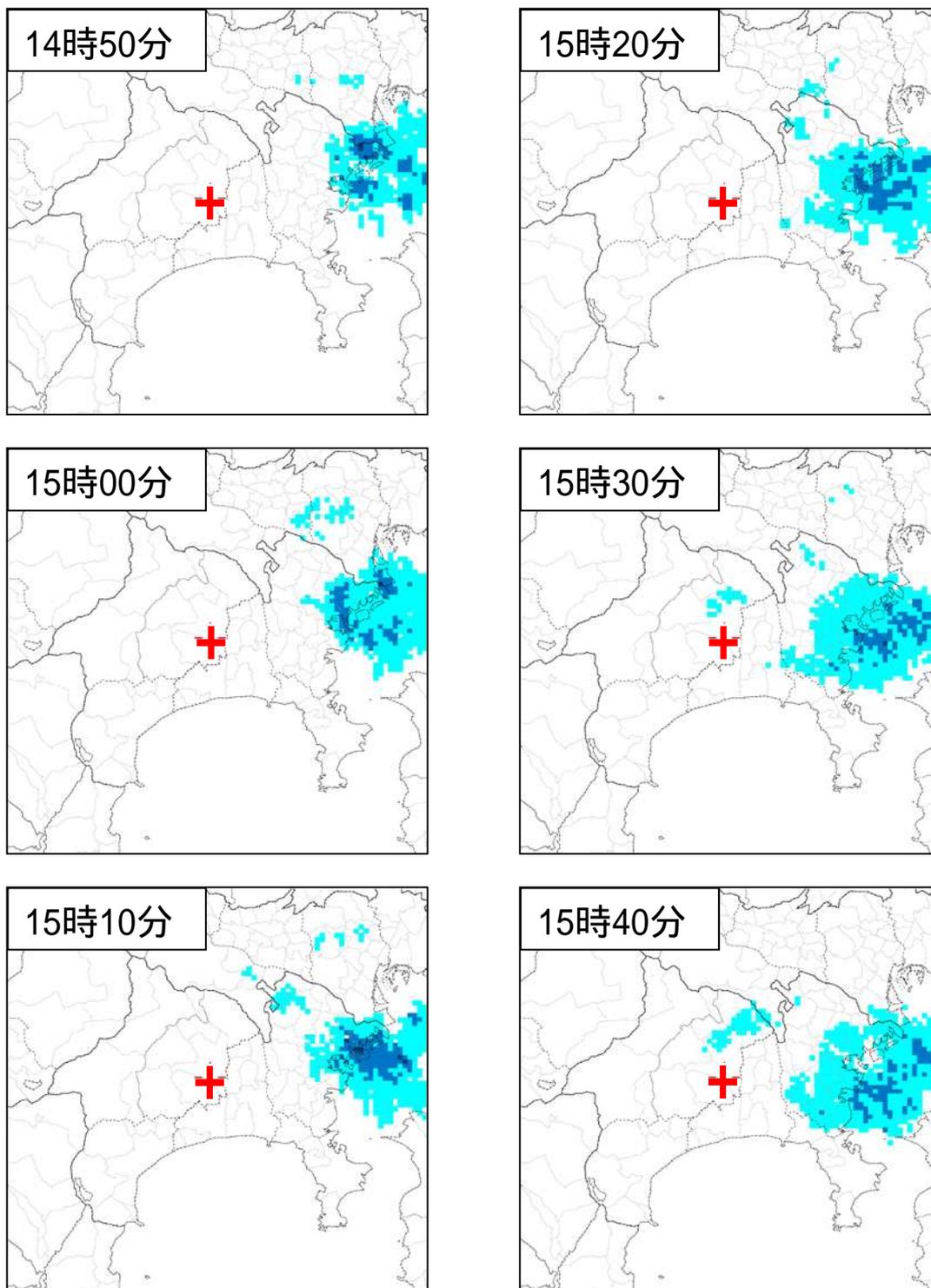
風向（36方位）、風速（m/s）、気圧（hPa）



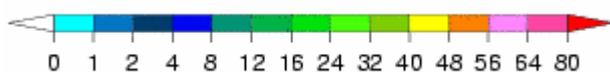
地上天気図および気象衛星「ひまわり7号」赤外画像

平成27年2月13日15時

神奈川県厚木市で突風の発生した時間帯の気象レーダーで観測された雨雲の様子



レーダーエコー強度 (mm/h)



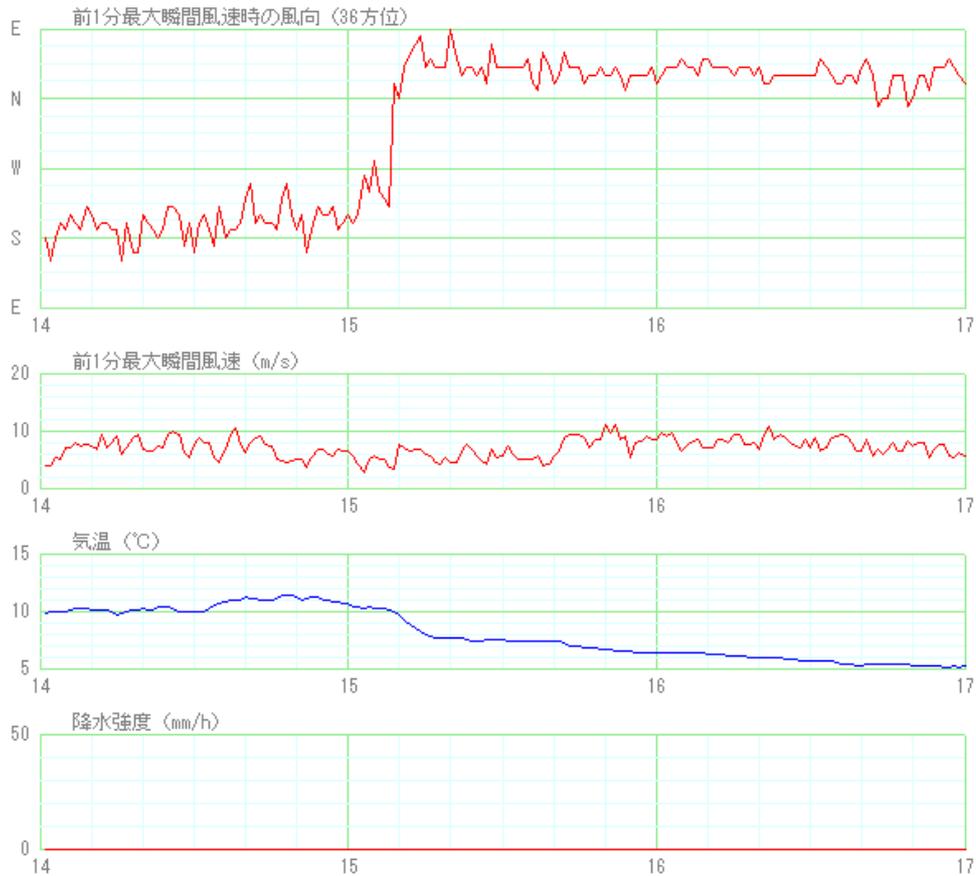
0 1 2 4 8 12 16 24 32 40 48 56 64 80

レーダーエコー強度図 (合成レーダー)

平成27年2月13日14時50分～15時40分
図中 + 印は被害発生地域を示す。

被害地付近の観測データ

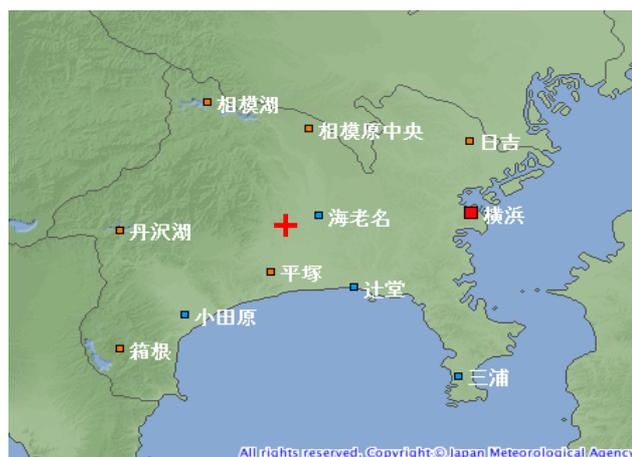
海老名地域気象観測所（海老名市）の観測値時系列グラフ （2月13日14時00分～17時00分）



データは上から順に、

前1分間最大瞬間風速時の風向（36方位）、前1分間最大瞬間風速（m/s）、気温（℃）、降水強度（mm/h）

気象観測所の配置図（神奈川県）



図中の + は被害発生地域付近を示す

シンボル	観測所の種類	表示される観測要素
■	気象台	気温・降水量・風向風速・日照時間・積雪深・湿度・気圧
■	測候所・特別地域気象観測所	気温・降水量・風向風速・日照時間・積雪深・湿度・気圧
■	地域気象観測所(アメダス)	降水量
■	地域気象観測所(アメダス)	降水量・積雪深
■	地域気象観測所(アメダス)	気温・降水量・風向風速
■	地域気象観測所(アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間
■	地域気象観測所(アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間・積雪深

4 特別警報・警報・注意報及び気象情報の発表状況

平成27年2月13日

神奈川県（横浜地方気象台発表）

特別警報・警報・注意報の発表状況

・厚木市

：発表 ：特別警報から警報 ：特別警報から注意報 ：警報から注意報 ：継続 解：解除
 浸：浸水害 土：土砂災害 土浸：土砂災害、浸水害 **斜体字：発表** **下線：特別警報から警報**

発表時刻	暴風雪特別警報	大雨特別警報	暴風特別警報	大雪特別警報	波浪特別警報	高潮特別警報	暴風雪警報	大雨警報	洪水警報	暴風警報	大雪警報	波浪警報	高潮警報	大雨注意報	大雪注意報	風雪注意報	雷注意報	強風注意報	波浪注意報	融雪注意報	洪水注意報	高潮注意報	濃霧注意報	乾燥注意報	なだれ注意報	低温注意報	霜注意報	着水注意報	着雪注意報
2015/ 2/13 04:46																													
2015/ 2/13 15:32																													
2015/ 2/13 20:05																													
2015/ 2/13 21:50																	解												

本表では、期間内における特別警報・警報・注意報の発表、切替、解除の全てを時刻順に掲載しています。

神奈川県竜巻注意情報の発表状況

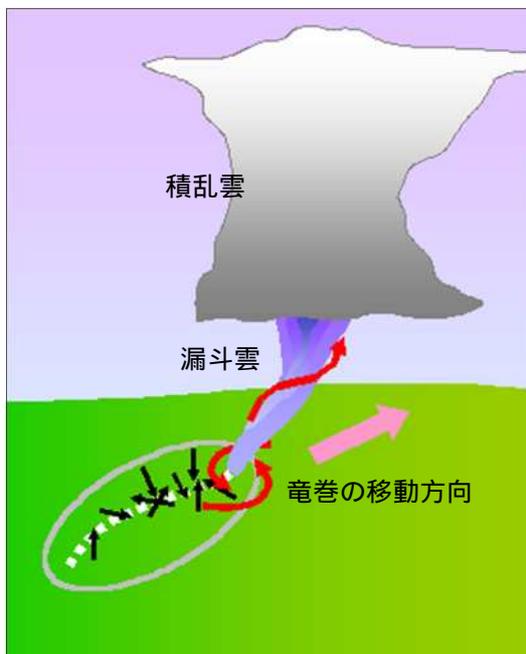
情報番号	発表日時
第1号	平成27年2月13日15時42分

5 参考資料

突風に関する現地災害調査報告では、被害状況や聞き取り調査から突風が、「竜巻」、「ダウンバースト」、「ガストフロント」など、どの現象によってもたらされたかを推定しています。また、竜巻やダウンバーストによる被害などから、「Fスケール（藤田スケール）」というものさしを使って現象の強さ（風速）を推定しています。ここでは、それぞれの現象とその被害の特徴、Fスケールについて紹介します。

竜巻とは

竜巻とは、積乱雲または積雲に伴って発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状の雲（「漏斗雲」といいます。）を伴っています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低いため、地表面の近くでは空気は渦の中心に向かうように吹き込み（収束）、回転しながら急速に上昇します。



竜巻とその被害の様子

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。



竜巻の移動経路と風向分布の例（新野他、1991）
平成2（1990）年12月11日千葉県茂原市で日本では戦後最大級の竜巻が発生しました。この図は、地面近くの構造物や畑の作物の倒れ方の調査から推定した竜巻の移動経路（点線）と風向分布（矢印）です。このように、現地調査を行うことで竜巻の移動経路や風向を知ることができます。また被害の程度から竜巻の強さを知ることができます。

竜巻の現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

竜巻の移動とともに風向が回転する。

発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。ただし、積雲に伴う場合には、ないこともある。

気圧が下降する。急激な気圧低下に伴って、耳に異常を訴える場合がある。

被害地域は細い帯状となることが多い。

残された飛散物や倒壊物はある点や線に集まる形で残ることがある。

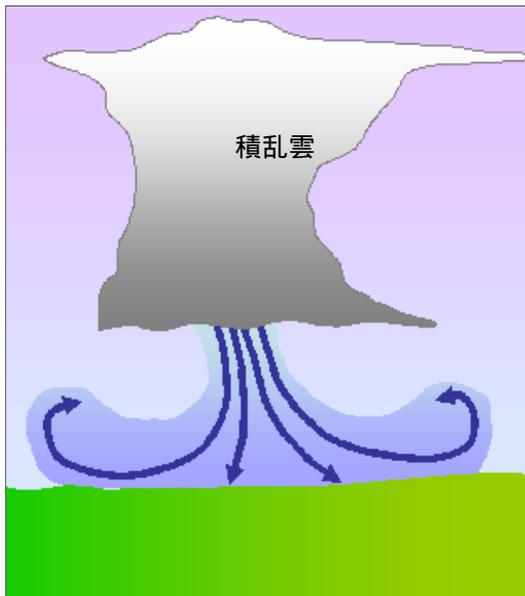
重量物（屋根・扉など）が舞い上げられたように移動する。

漏斗雲が目撃されたり、飛散物が筒状に舞い上がっているのが目撃されることが多い。飛散物が降ってくる。

ゴーというジェット機のような轟音がすることが多い。

ダウンバーストとは

ダウンバーストとは、積雲や積乱雲から爆発的に吹き下ろす気流とこれが地表に衝突して周囲に吹き出す破壊的な気流のことをいいます。水平的な広がり大きさにより2つに分類することがあり、広がり4 km以上をマクロバースト、4 km以下をマイクロバーストといいます。



ダウンバーストのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重いダウンバーストの空気を、また、青矢印はダウンバーストの空気の流れを表しています。

ダウンバーストの現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

地上では発散的あるいはほぼ一方方向の風が吹く。

発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。

気温や気圧は上昇することも下降することもある。

短時間の露点温度下降を伴うことがある。

強雨や雷を伴うことが多い。

被害地域が竜巻のように「帯状」ではなく、「面的」に広がる。

物の飛散方向や倒壊方向は同じか、ある点から広がる形となる。

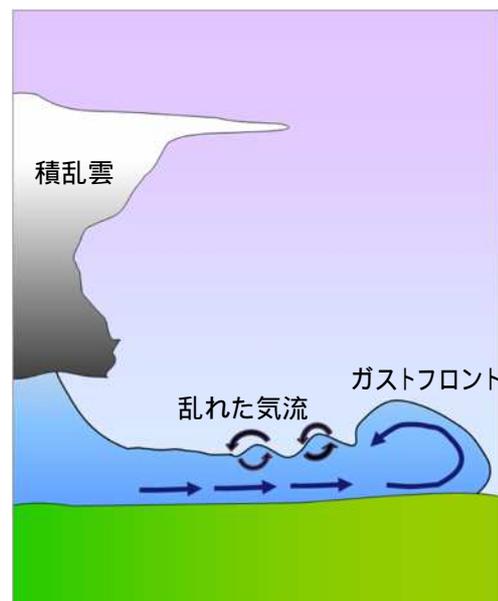


ダウンバーストの被害の様子

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

ガストフロントとは

ガストフロントとは、積雲や積乱雲の下に溜まった冷気が周囲に流れ出し（冷気外出流といいます。）、周囲の空気との間に作る境界のことをいいます。突風（ガスト）を伴うことがあることから、突風前線と呼ばれます。



ガストフロントのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

ガストフロントの現象等の特徴をまとめると次のようになります。

降水域から前線状に広がることが多い。

風向の急変や突風を伴い、しばらく同じ風向が続くことが多い。

気温の急下降や気圧の急上昇を伴うことが多い。

降水域付近のみでなく、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。

じん旋風

晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。

その他の突風

自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントに伴う旋風などもある。

F スケール (藤田スケール) とは

F スケール (藤田スケール) とは、竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也博士により1971年に考案された風速のスケールです。日本ではこれまでF 4以上の竜巻は観測されていないといわれています。

F スケールの各スケールの風速の下限Vは $V=6.3(F+2)^{1.5}$ (m/s)

で与えられ、F 1はビューフォートの風力階級 (気象庁風力階級) の第12階級 (開けた平らな地面から10mの高さにおける10分間平均風速で32.7m/s以上)、F 12はマッハ 1 (音速: 約340m/s) になるよう定義しています。ただし、ビューフォートの風力階級のような10分間の平均風速に基づくものではなく、ある点を吹きぬけた空気が1/4マイル (約400m)

遠方まで達するのに要する時間内の平均風速によると考えて求めたものです。各スケールと被害との対応は、藤田によると次のとおりとなります。

F0: 17~32m/s (約15秒間の平均)

テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。

F1: 33~49m/s (約10秒間の平均)

屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。

F2: 50~69m/s (約7秒間の平均)

住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。

F3: 70~92m/s (約5秒間の平均)

壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。

F4: 93~116m/s (約4秒間の平均)

住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1トン以上ある物体が降ってきて、危険の上もない。

F5: 117~142m/s (約3秒間の平均)

住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。

【参考文献】

大野久雄著 (2001): 雷雨とメソ気象. 東京堂出版, 309pp.
新野宏・藤谷徳之助・室田達郎・山口修由・岡田恒 (1991): 1990年12月11日に千葉県茂原市を襲った竜巻の実態と

その被害について. 日本風工学会誌, 第48号, 15-25.
日本気象学会編 (1998): 気象科学辞典. 東京書籍, 637pp.
Fujita, T.T. (1992): Mystery of Severe Storms. The University of Chicago, 298pp.

現地災害調査速報の作成主旨について

気象台では、突風災害等が発生した場合、災害発生の原因となった現象と災害との関係等を迅速に把握するため、可能な限り速やかに災害が発生した地域に職員を派遣し調査を実施することとしている。さらに、現地調査終了後、その調査結果に加えて気象現象の発生状況、実況資料、気象台の執った措置等を速やかに取りまとめ「現地災害調査速報」を作成し、地方公共団体や報道機関等に対して説明を行うこととしている。

気象台として、この速報が地域の防災機関・報道機関とのさらなる連携強化及び地域防災力の向上に役立つことを願っている。

東京管区気象台 気象防災部 防災調査課

本報告の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「2万5千分の1地形図」「20万分の1地形図」を複製したものである。（承認番号：平26情複第658号）

問い合わせ先

横浜地方気象台 電話 045-621-1999

東京管区気象台 気象防災部 防災調査課

電話 03-3212-3853

速報の内容について、私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、東京管区気象台に無断で転載等を行うことはできません。また、引用を行う際は適宜の方法により、必ず出所（東京管区気象台）を明示してください。速報の内容の全部または一部について、東京管区気象台に無断で改変を行うことはできません。